

## 学会記事 Newsletter

### 海外派遣問題について学術会議への申入れ

第25回総会の決定に基づき、学術会議よりの海外派遣の問題について、本学会会長より学術会議会長に対し、下記の申入れが行われた。

日本学術会議

会長 伏見 康治 殿

日本人類遺伝学会

会長 井上 英二

### 国際会議代表派遣の問題について

表記の問題につきましては、去る8月14日、日本学術会議において開催された学協会等との臨時懇談会の席上その経過についての説明を受け、かつ当学会への影響について意見を述べたところありますが、当学会および学会員は、以下に記すように、本件に起因する国際的信用の失墜等公的・私的損失を蒙ったことをご承知の上、善処をお願いするものであります。

#### 記

1. 昭和56年度の国際会議に派遣する代表の候補者については、従前通り、日本人類遺伝学会ならびに日本学術会議 IUBS 研究連絡委員会より、同年9月13日より18日までイスラエル国エルサレムで開催される第6回国際人類遺伝学会議への派遣を推薦した。
2. この段階で同国際会議の開催母体である国際人類遺伝学会議常置委員会委員長に対して、この経過を報告した。その後1位の候補者が派遣を辞退した。
3. 昭和56年7月1日総学庶第953号をもって、日本学術会議事務局より2位の候補者で当学会員である梶井正氏（山口大学小児科教授）宛に「学術関係国際会議への派遣決定について」の通知があった。
4. 梶井正氏はこの決定通知に基づき、上記国際会議組織委員会に出席を通知し、同組織委員会は同氏が参加するシンポジウムの準備を進めた。
5. しかし同年8月、同国際会議の開催が切迫した時点に至っても日本学術会議より梶井正氏に対し旅行手続きその他必要な準備に関する連絡がなく、かつ新聞紙上の報道により同氏は同国際会議への参加を断念せざるを得ないと判断し、その旨同組織委員会に通知した。
6. これに対し同組織委員会附置の国際募金委員会より梶井正氏宛に1,000米ドルを旅費の一部として提供する旨の連絡があった。
7. 同年8月28日に至り、総学庶第2279号日本学術会議会長発第7部長宛文書（写）を添付して総学庶第766号をもって日本学術会議第7部長より梶井正氏宛に「学術会議国際会議代表派遣について」の文書が發送され「(前略)遺憾ながら貴意に添いがたい事態になりましたので御了承願います」旨の通知があった。
8. 梶井正氏はこの「事態」の意味するところが、上記3.の公文書の有効性を上記7.の公文書に

よって否定したとの意であるか否か解釈に苦しんだが、国費派遣が事実上不可能になったと判断し、前記1,000米ドルに不足の分を私費で支弁し、個人の資格で同国際会議に参加した。

9. なお、昭和55年10月第6回国際人類遺伝学会議会長および組織委員長より、同組織委員会およびプログラム委員会の決定に基づき、招待講演者への旅費援助のため各国国内に募金委員会を設立するよう要望があった。これに対し当学会は、学会開催地決定後にこの種の方法による学会開催資金の調達を行うことは国際通念に反し、かつわが国の募金委員会の代表がプログラム決定に参加することの保障がされていないことを理由に、この要望を拒否した。このような背景のもとに前記2.の通知が常置委員会委員長(第6回国際人類遺伝学会議会長と同一人)に対し行われたのである。すなわち今回の代表派遣問題の帰結として、国外で準備された資金をわが国から国費によって参加することがいったん決定された梶井正氏の旅費の一部として支出せざるを得ない状況が成立したことになり、わが国科学者および科学行政の国際社会における信用の失墜を招来したことは極めて遺憾である。

(昭和56年11月20日)

### 日本学術会議への申入れに対する回答

総学庶第 2967 号

昭和 56 年 12 月 26 日

日本人類遺伝学会

会長 井上英二 殿

日本学術会議会長 伏見康治 ㊟

昭和56年11月20日付の貴職よりの文書拝見いたしました。

井上先生ご指摘のように、この問題は、中山総理府総務長官が、日本学術会議の代表派遣は会員に限るべしと言う意見を抱かれ、納得できない場合には、派遣者の出張発令の書類を受けつけないと言われたことに端を発しており、日本学術会議側としては、既に今年度の申請手続きも続々と進行中であり、できる限り不都合な事態にならないように、長官と折衝したのであります。梶井先生のケースは、まさに、このやりとりの段階で起ったことであり、迅速に結論の出せないまま、時間が推移し、手続き問題に関し、同先生への御連絡が遅れることとなったわけで、同先生はじめ関係学会の皆様に対しても御迷惑をおかけすることになった次第であります。

今後、当会議といたしましては、これら経験に鑑みまして、迅速に御連絡すべく努力いたしますのでよろしく御了承下さいませようお願い致します。

なお、本件と直接の関係はありませんが、本会議は目下その組織・運営の根本的改革を意図して審議をすすめているところでありますので、将来、一般有権者との結び付きについても一層の強化をもたらすようになるものと期待しておりますので、この旨お含み下さい。

### 6th World Congress of the International Association for the Scientific Study of Mental Deficiency

上記会議が1982年8月22~26日、カナダのTorontoで開催される。

主題は、*Global Sharing and Learning—Through the '80s with emphasis on local action.* 精神薄弱の医学的側面に関する諸問題が、重要なテーマの一つになっており、医師の参加が望まれている。

*Jpn. J. Human Genet.*

関心のある方は下記へ照会のこと。

IASSMD Secretariate  
National Institute on Mental Retardation  
York University Campus  
4700 Keele Street  
Downsview, Ontario Canada M3J 1P3